

# 市民参加の森づくり～帯広の森について～

帯広市都市建設部みどりの課

## (帯広の森)

『帯広の森』は面積が406.5ha、幅が約550m、延長は約11kmになります。この帯広の森を中心とした緑のベルトが、十勝川から札内川を結ぶことによって、帯広の市街地を包み込むことになります(図1)。

帯広の森は、都市部への人口や産業の過度な集中が進むことによる宅地の郊外部への無秩序な延伸(スプロール化)を防ぎ、都市部と農村部を区分し双方の交流の場としての役割を果たすことが期待されています。また、都市林のもつ公害抑制、都市災害の防止、微気象・環境の緩和、生物生息環境の保全などの機能も期待されています。

さらに、緑による安らぎ、余暇利用のための空間確保なども重視しており、快適な都市環境を確保することを目的としています。



図1 帯広の森の位置

## (帯広の森構想)

「帯広の森」構想は、帯広市の第5代市長の吉村博によって輪郭がつけられました。昭和34年に策定した帯広市総合計画のなかでまちづくりのテーマを『近代的田園都市』と位置づけ、「良好な生活環境を保全しつつ、行政としての責任の果たせる都市人口の最適規模は20万人程度(当時の人口は約10万人)である」と、都市の成長規模の上限を設定しました。この総合計画の土地利用計画のなかには、「都市計画用途地域の周辺部に緑地帯を指定するとともに、帯広川河畔の風致地区を存置するように図る」とあり、グリーンベルト的な考えが包含されていました。

昭和44年に吉村市長がオーストリアを訪問し、そこで『ウィーンの森』に出会ったことを契機として、「帯広の森」構想が具体化されました。広大なウィーンの森と、それに共生するウィーン市民に大きな感銘を受けた吉村市長は、昭和45年に帯広市第2期総合計画策定審議会を発足させ、その場で「帯広の森」構想を発表しました。

そして、昭和46年4月に策定された第2期帯広市総合計画において、「帯広の森」はまちづくりの主要な施策として明確に決定されました。その後、市議会での激しい論争、市民の気運の高まりなどを経て、事業がスタートしました。

## (帯広の森計画の経過)

昭和49年 2月12日	都市計画決定 (334.6ha)
昭和52年 10月 5日	都市計画決定変更 (→402.2ha)、芽室町分 70ha (運動施設区) を追加編入し道路 2.4ha を除外
昭和58年 2月 3日	都市計画決定変更 (→402.5ha)、不整形地整形のため計画変更
平成 5年 3月 5日	都市計画決定変更 (→405.6ha)、道路部分の変更に伴う計画変更
平成15年 2月14日	都市計画決定変更 (→406.5ha)、自由が丘地区の緑地 0.9ha を追加編入

## (整備状況)

平成 22 年 3 月末現在の進捗状況は、造成については 341.2ha、全体の 83.9%が開設済みとなっています。

帯広の森は、一度開墾されて農地となった土地を森として整備するものであり、全体の 87.8% (356.8ha) の用地を買収する必要があります。そのうち、97.4% (347.7ha) が買収済みとなっています。

## (ブロック別造成計画)

帯広の森は、全体を 8 ブロックに分けて計画しており、各ブロックは、それぞれの特色を生かした位置づけがなされています (図 2、表 1)。

「帯広の森造成計画書」では、施設として、園路や駐車場、トイレ、水飲場、消火栓、各種標識、芝生広場などの全ブロックに共通するもののほか、第 4 ブロックには運動施設を集中的に建設することとされています。なお、森林区と施設区の割合は、8:2 としています。

めざす森の姿としては、生物的連続性を持ち、立地条件に合った豊かで多様な森をつくるため、カシワやミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、ハンノキなどの郷土樹種による『ふるさとの森』を創ることを基本的な考えとしています。また、それぞれの立地に原始的自然の森を配置し、斜面林等の骨格となる森でそれらを連続させ、主要道路沿いには、各ブロックの特色ある活動の展開の場として、「散開林」を配置する計画です。

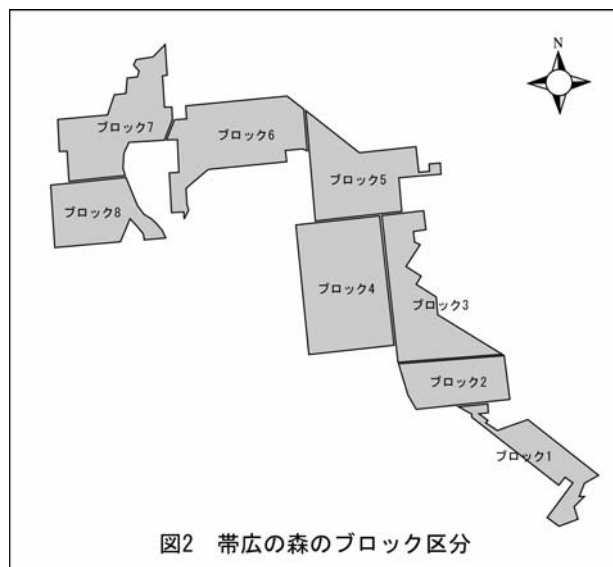


図2 帯広の森のブロック区分

表1 帯広の森の各ブロックの整備計画概要

ブロック	面積 (ha)	整備内容
ブロック1 森林区 (ふるさとの森)	25.8	園路、植栽、芝生広場、駐車場
ブロック2 苗圃区 (自然学校の森)	23.9	緑化植物園、帯広の森緑化技術センター、温室、植栽、芝生広場
ブロック3 記念植林区 (記念の森)	57.4	園路、芝生広場、修景植栽
ブロック4 運動施設区 (スポーツの森)	80.0	陸上競技場、体育館(武道館)、野球場、サッカー・ラグビー場、テニスコート、アイスアリーナ、スピードスケートリンク、研修センター、洋・和弓場、プロムナード、園路、植栽、芝生広場、駐車場
ブロック5 森林区 (創造の森)	42.9	帯広の森文化センター(展望レストラン)、彫刻、野外音楽堂、広場、照明、修景植栽
ブロック6 森林区 (レクリエーションの森)	75.1	キャンプ場、フィールドアスレチック、大池、園路、芝生広場、駐車場
ブロック7 森林区 (ふるさとの森)	58.0	園路、修景植栽、駐車場
ブロック8 森林区 (ふるさとの森)	43.4	園路、修景植栽(果樹園)、駐車場

## (帯広の森市民植樹祭)

帯広の森は、莫大な事業費がかかるため、「市民の立場で積極的に森づくりを推進しよう」という市民運動が起こりました。そして、市民有志による『帯広の森市民植樹祭実行委員会』が組織され、市と同実行委員会の共催により、昭和 50 年から、市民参加による『帯広の森市民植樹祭』が開催されることとなりました。その後、森づくりに対する市民の情熱はますます高まり、毎年 5 月中旬に開催される市民植樹祭は、4,000~6,000 人にもおよぶ参加者で賑わってきました。

帯広の森市民植樹祭は、平成 16 年度までに 30 回開催され、132.9ha で植樹が行われました (図 3、表 2)。参加した人はのべ 148,500 人、植樹した樹木は、針葉樹が 13 種類 75,600 本、広葉樹が 42 種類 154,000 本、合計で 55 種類、約 230,000 本になります。

### (帯広の森市民育樹祭)

市民植樹祭が軌道に乗り約 15 年が過ぎると、成長の早いシラカンバやチョウセンゴヨウマツなどを植樹した初期の森は、樹高と樹冠のバランスが取れず、不健康な林相を呈し始めました。よって、樹木の健全な成長のため、間伐や下枝払い等の育樹作業が必要になりました。

しかし、育樹に関しては、誕生や結婚など人生の記念に植樹した方々がいること、植樹と異なり刃物を使う作業で危険が伴うことなど、種々の問題が想定され、これらを整理するため、平成 2 年に『プレ育樹祭』および『市民環境シンポジウム』を開催し、体制づくりや間伐に対する市民合意がなされました。

これら検討結果を踏まえて、平成 3 年に市民参加による『帯広の森市民育樹祭』が開催され、平成 17 年度までの 15 年間に、81.1ha を対象に育樹作業が行われました。参加者数は、延べ約 13,000 人、間伐した樹木の数は約 49,000 本になります。

### (帯広の森づくりのこれから)

造成開始から 30 年以上が経過し、各所で立派に成長し森らしい景観がみられるようになってきました。

帯広の森での森林造成や施設整備が進むにつれ、市民植樹祭などの大規模イベントを実施するための用地(空地)が減少しつつあり、長年にわたり市民に親しまれてきた市民植樹祭は、平成 16 年度の第 30 回目で終了しました。また、市民育樹祭も、樹木の成長に伴い、育樹作業を担う市民の安全確保が難しくなってきたため、平成 17 年度の第 15 回目をもって終了しています。

今後は、帯広の森の育成管理・利活用の拠点施設として平成 22 年 4 月にオープンした帯広の森・はぐくむを中心に、小規模な植樹・育樹活動や自然観察会、市民団体による自主的な森づくり活動の展開など、市民にとってより日常的・継続的な森との関わり方を、市民とともに追求し実践していきたいと考えています。

帯広の森づくりは、帯広市のまちづくりの象徴ともいえる壮大な事業です。より多くの市民が、「森を育み、森に育まれる」という気持ちを持ち、日常生活の中で森づくりに関わることが、魅力あるまちづくり、特色ある地域の文化づくりにつながると確信しています。

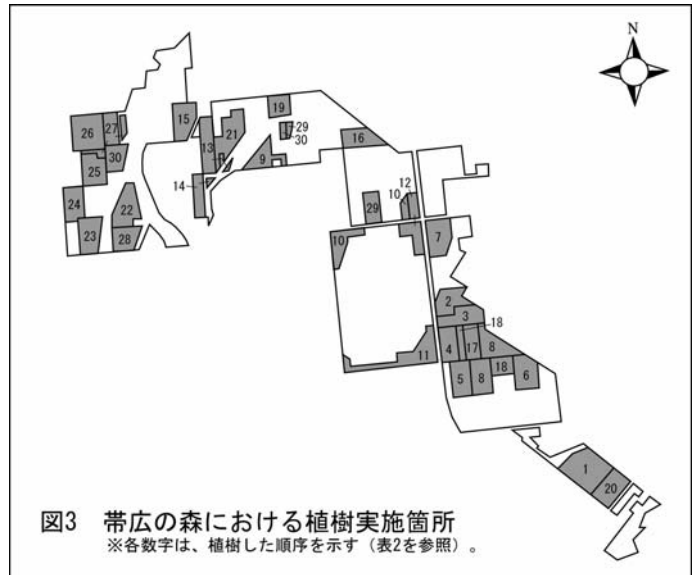


表2 帯広の森市民植樹祭での植樹実績

回*	年月日	面積 (ha)	植樹本数 (本)	参加者数 (人)
1	1975.06.01	8.7	3,000	500
2	1976.05.16	3.4	11,297	1,198
3	1977.05.08	4.6	19,010	2,004
4	1978.05.14	5.0	8,645	2,241
5	1979.05.13	4.3	8,041	3,000
6	1980.05.11	5.0	8,050	2,461
7	1981.05.24	5.0	9,240	3,236
8	1982.05.16	6.7	12,000	6,136
9	1983.05.15	4.6	11,000	6,000
10	1984.05.13	4.4	8,700	6,000
11	1985.05.12	4.4	8,550	7,072
12	1986.05.11	4.0	7,920	6,987
13	1987.05.17	4.0	8,000	6,980
14	1988.05.15	4.0	8,000	7,040
15	1989.05.21	4.0	8,000	7,020
16	1990.05.13	4.0	8,000	7,100
17	1991.05.12	3.0	6,000	6,050
18	1992.05.17	3.0	6,000	6,067
19	1993.05.16	3.0	6,000	5,985
20	1994.05.15	4.5	7,260	5,950
21	1995.05.14	4.2	6,994	5,140
22	1996.05.12	5.0	6,040	5,320
23	1997.05.12	5.0	6,100	5,280
24	1998.05.17	4.3	6,380	5,000
25	1999.05.16	4.0	6,120	5,500
26	2000.05.21	3.8	6,388	5,200
27	2001.05.20	3.5	5,253	4,810
28	2002.05.19	4.0	4,304	4,750
29	2003.05.18	4.0	4,250	4,000
30	2004.05.16	5.5	5,150	4,500
合計		132.9	229,692	148,527

\* 図3を参照。